

こういうことがあれば、地中化になれば地元の業者も仕事ができる。そういうものもつくっていく会社もあるということで、地元の雇用が必ず生まれてくるというふうに思いますので、取り組んでいていただきたいと思います。

最後になりますが、今回、火災に遭われた皆様方にお見舞いを申し上げますとともに、今回の消火にご尽力をいただいた消防団員や市外から駆けつけてくれた消防署、そして休日を返上し、頑張った市職員の皆様に御礼を申し上げまして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

○17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

まず、駅北大火の被災者の皆様に対し心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を望むものであります。

それでは、1番目の消防力の強化についてでございますが、昨年12月22日の糸魚川市駅北大火を教訓に、火災時における延焼を防ぐため、災害・防災に力を入れている神奈川県大和市の初期消火用資機材整備計画について、2月10日に研修をいたしました、清政クラブで。

大和市はコンパクトで木造住宅密集地域が多く点在し、仮に大規模震災時に同時多発的に火災が発生した場合、消防署や消防団だけでは対応が困難であることが予想されます。大和市地域防災計画においても南関東地震時の被災想定は、市域で最大1,890棟の焼失が予想されることから、火災の延焼拡大を阻止することが最大の課題となっております。

震災時に想定される同時多発火災では、地域における市民の初期消火活動及び延焼防止活動が極めて重要になることから、初期消火に有効で取り扱いが容易なスタンドパイプ消火資機材が効果的であると考え、各自主防災組織の理解と協力を得て、平成25年度から導入を進めています。現在では、150ある自主防災組織のうち147自主防災組織に合計275台のスタンドパイプ消火資機材を配付し、その取り扱い訓練は、指導訓練マニュアルに基づき、消防職員・消防団員が立ち会いのもと新規導入資機材であることから、市民の関心も高く、地域防災訓練の回数は年々増加傾向にあります。現在、大和市では、昨年12月の糸魚川市駅北大火の教訓をもとに風速15メートル以上の強風が吹いた場合、火災予防として市内パトロールを行い、市民への防火告知も行っております。このように大規模地震を初め大規模火災が発生した場合に備え、日々、努力を重ねておりました。

以下、項目によりお伺いします。

(1) スタンドパイプ消火資機材導入について。

(2) ボール型の投げる消火器・消火剤、愛称が消える魔球だそうです、の購入支援及び開発強化について。

(3) 消防団の強化策について。

- ① これも大和市で行われてる少年消防団の発足について。
- ② 対応能力向上策について。
- ③ 団員確保策及び組織強化について。
- ④ 団員報酬の増額について。
- ⑤ 「消防団応援の店事業」の取り組みについて。

(4) 消防職員の増員について。

(5) 消防水利整備状況及び拡充について。

(6) 木密地域不燃化対策について。

(7) 戸別受信機の減免について。

2、地域づくり加速化事業についてであります。

これは新潟日報に掲載されておりました、魚沼市で、魚沼市生まれのタレントで女優の大桃美代子さんの記事が載っておりました。地域再生大賞表彰式が2月17日に東京で行われ、この賞は新潟日报社など全国の地方新聞社45社の共同通信社が地域に活力を高める活動に取り組む団体を表彰し、応援するもの、ことしで7回目ということです。

国が地方創生を挙げるより早い取り組みでありまして、第1回から大桃美代子さんが選考委員をさせていただいていると。1年に約50団体の事例を見るので、7年で350団体、現地に着き、話を聞く機会が大桃さんの財産ということで、ことしの村上市の都岐沙羅パートナーズセンターが新潟県で初めて大賞ということに輝きました。

この都岐沙羅PC、パートナーズセンターは、行政と住民との中間支援組織として発足し、地域の問題解決に力を注いできました。地域の宝に注目し、住民が誇りを持てるような活動は、全国のモデルとなる事例で、いろいろなことをやっておりました。

この取り組みをもとに糸魚川市でも早期に中間支援組織を設立する必要があると考えるものであります。

以下、項目によりお伺いします。

- (1) 中間支援組織の設立及び運営支援等の早期実現について。
- (2) 地域運営組織への展開について。
- (3) 地域リーダー育成支援について。

3つ目、駅北復興まちづくり計画の策定についてであります。昨年の12月22日に発生しました駅北大火後の復旧をどうするか。今後のまちづくりをする上で都市再生機構の支援も必要ではないかと思ひ、2月9日にUR都市再生機構へお伺いしております。

都市再生機構の事業としては、道路、公園、河川などの公共施設を整備・改善し、土地区画を整え、宅地利用の増進を図るための事業や公共施設を整備する上で土地の確保が十分でない場合、地権者から少しずつ土地を提供してもらおうための交渉、またはその一部を売却し、事業資金の一部に充てるなど土地区画整理をすることにより、市街地再開発事業を推進することにあります。

また、都市再生機構のプロジェクトとして4点挙げられます。

- 1、国際競争力強化のための公共インフラ整備と防災力強化の推進。
- 2、社会経済情勢の変化に対応した住環境の整備及び都市構造への転換。

3、地方公共団体等の連携しつつ、都市機能、居住誘導、老朽建物、低未利用地の再編及び中心市街地の活性化等の支援。

4つ目に、密集市街地等の防災対策の推進が必要な区域においては、都市の防災機能の充実と減災を図るための支援事業などであります。

これら3と4を事業支援する必要があるが、この糸魚川駅北大火にもあると思います。今後のまちづくりとしては、公園、緑地、広場、道路整備など市街化区域内の住環境を整備し、良好な住宅の供給、または商店街の近代化など関係住民の協力を得ながら限られた時間の中でできるだけ選択肢を広げ、十分協議する必要があると思います。

そこで、以下項目により質問します。

(1) 新たなまち再生及び地域イノベーションについて。

(2) 立地適正化計画策定及び都市計画マスタープラン改定についてであります。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、今後、先進地等を参考に研究してまいります。

3点目の1つ目につきましては、子供のころから消防の仕事や火災予防に興味を持っていただくことは、将来の消防団の担い手として有効な取り組みの一つと捉えております。

2つ目につきましては、あらゆる災害に対応できるよう訓練を重ね、消防団の現場対応能力の向上に努めてまいります。

3つ目につきましては、団員の加入促進イベントや街頭PRを実施するなど団員確保に努めるとともに消防団施設の拠点化を引き続き推進し、迅速な出動態勢を強化してまいります。

4つ目につきましては、県内の動向を見据えて、引き続き検討をしております。

5つ目につきましては、県において消防団を応援するため協賛店から消防団員とその家族にさまざまなサービスを提供していただく制度を開始いたしております。

4点目につきましては、当面は現在の職員定数で対応してまいります。

5点目につきましては、市内全域の消防水利の充足率は、現在、98.5%であり、今後さらなる充実強化を図ってまいります。

6点目につきましては、市内の木造住宅が密集している地域における不燃材を使用した住宅への改修や修繕等に対する助成などを検討してまいります。

7点目につきましては、規則に基づき減免をいたしております。

2番目の1点目と3点目につきましては、29年度に地域づくり活動を担う人材の交流会や地域リーダーの育成講座を開催し、新たな地域リーダーとともに中間支援組織の設立の研究調査を進めたいと考えております。

2点目につきましては、現在、市内各地で地域振興協議会等による地域づくり活動が始まってお

りますが、課題も多くあり、活動や運営を支援する中で地域運営組織としての役割が果たせるよう進めてまいります。

3番目の1点目につきましては、火災や災害に強い活力とにぎわいのある住み続けられるまちを目指し、都市基盤の再生はもちろんのこと、多世代が交流して新たなコミュニティを形成するような中心市街地としてふさわしい地域を目指してまいります。

2点目につきましては、都市防災や都市景観、環境などの観点も含めた計画策定を予定いたしており、復興まちづくり計画とともに整合性を図り取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

大和市へ行ってまいりまして、本当に実践もやらせてもらいまして、軽いんですね。子供でもできる、高齢者でもできる、消防団や消防署の人たちみたいに力入れないで使えるのをクラブ全員で体験してまいりました。圧もある程度かけるんですが、簡単に使えるし、駅だとかコンビニエンスストア、鉄道会社と基本協定して、そこに置いてもらうとか、先ほども言いましたように275台やってるんですが、やっぱり普通の今回の火災の初期消火は7分後に到着してやってるんですが、その前にやっぱり使えるようなことも必要だと思いますし、地震、東京みたいに、関東みたいに起こる可能性が低いかわかりませんが、だいたい日本海でも起こる可能性がかなり確率が上ってきとると思うんで、その場合にやっぱり消防署も消防団も駆けつけできない場合に、やっぱりそういう地元におられる方、子供でも高齢者でもOBでもできるような体制は、私は必要だと思うんです。実感してやってきたんですが、簡単に運べる。タイヤもついてまして、その資機材全部運べる。私は必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

私も資料をいただきまして、拝見をさせていただきました。今、議員の言われますスタンドパイプ型ということでありまして、これにつきましては、地下式消火栓を想定したものというふうに捉えております。当市では、特に糸魚川地域で雪の比較的少ないところで、この地下式消火栓というものを設置しております。そのような中で、今ほどありましておおり、やはり初期消火というものは非常に重要であるというふうに捉えております。

当市におきましても、消防署所から遠隔な地域においては、地上式消火栓ですけども、そういうところに消火栓用のホースとかいう配備も継続して行っておるところでございますが、比較的、今このことにつきましては、私が今申し上げたことも含めて旧市街地のところになるのかなというふうに思います。いずれにいたしましても安全の管理とか、またどこに置くかとかいろいろな問題もあ

ろうかと思います。議員言われました今非常に軽くて子供でも使えるというようなお話もありました。ホースの太さでいうと、多分40ミリぐらいの太さのホースではないかなというふうに思っております。当市で配備しているのは65ミリとか、比較的大きいもの、そして当市は消火栓の自然圧が非常に高い、大和市では4キロ以下、程度というふうにちょっとお聞きしております。いろいろなことも検証をした中で検討をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ県でもこういう3分の1補助だとかいろいろな形でこの神奈川県ではありますし、新潟県にもお願いしながらいろいろなことでやっていただきたい、こう思っております。

それでボール型の消火器なんですけど、ネットで見ると本当にボールぐらいで3個販売だとか、いろいろな形でたやすく投げれば消火できるの載ってますが、初期消火の場合もそこに置いとけば消えるという方式もございますし、消火器よりは火のものとところにそこにボールを置いとけばそれが自然と消えるような方式もありますし、ぜひその辺研究していただきたいのと、できれば、この大火のときに消防の皆さん火消してるんですけど、あの何本もやとったってあの大火じゃ消えないんですよ。できればそのボールをでかいというか、上からヘリコプターから消火剤できなかつたんで、そのボールを投げられる人に投げてもらって、消せるような、そういうやっぱり企業とタイアップしながら開発できるような方式が私は必要だと思う。糸魚川市モデルになって、そういうのを企業とタイアップして開発してできるような方式とれませんか、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

ご提案は2つかなというふうに思います。

1点目のボール型の消火用具ということだと思います。私もこの辺は少し承知しておりませんが、今、五十嵐議員が言われたとおり少しネットで確認をしてみました。ボール型というものもあつたりペットボトル型というようなものもあるようであります。これにつきましても、私も今現在のところでは、メリットもある、デメリットもあるのかなというところもございます。市長答弁もありましたとおり調査研究をしてみたいなというふうに思っております。

もう一点が、もっと大きいもので、例えば消火できないか。企業とかいろいろなメーカーとタイアップして研究できないかという趣旨のことかなというふうに思っております。初期消火が非常に重要である、また今回のような大きい火災のときにどういう消火方法か、例えば今言われたようなことも含めて、少し大きい話になろうかなと思いますけれども、いろいろなものをまないたの上で上げて、料理ができるかどうかというようなことで、検討することは必要なかなと思います。これにつきましては、私ちょっとなかなかいい、悪いというのは、今の段階で情報を持ってございませんので、なかなかコメントできませんけれど、今後、少し調べてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に研究していただきたいなと、こう思っておりますし、少年消防団は100人以上、大和市ではやっています。小学校4年生から6年生までで、今は115人ぐらいですか、毎年変わっていくんですが、やっぱりそれぞれやっているとございまして、これからまた中学生、高校生も含めながら少年消防団で結成するそうであります。やっぱり地元に残っていただけたら、必要不可欠だと思うんですね。子供から消防団とか消防署に入りたいなという人も、その中から出ていただきたいなと思っておりますので、その辺も含めてこの辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

少年消防クラブということだと思います。当市におきましては、少年消防クラブというものはございません。ありませんけれども、幼年消防クラブということで幼稚園、保育園というようなところで市内には、現在4つのクラブがございまして。その中で子供のころから火災予防ということを先生方からいろいろ教えていただきながら進めているという現状がございまして。

あと小学生になりますと社会科見学で消防署を見学するということもあります。当消防本部においても毎年、消防防災フェアというようなことも行いまして、PRを行っておるところであります。なかなか子供のころは、消防士になりたいというのは、職業の上位に上っているということでもありますけれども、だんだん年を重ねてきて、実際、仕事をするということになるとなかなか厳しいところがあるんだろうなというふうに思います。

いずれにいたしましても小さいころから火災予防について教えていくということは、大事なことでありたいというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ幼稚園とか幼年クラブというのは4つあると。小学校から高校も含めてですんで、ぜひその辺も含めて、少ない、何人かからでもいいんで徐々に各地区へ普及していただきたいなと、こう思っております。

それと対応能力向上策も含めて団員確保、この駅北4つの区ですか、消防団員が少ないんですね。各地区から応援いただいて、ホースが間に合った形が多いし、団員、かなりの若い方もおられますし、団員になっていただかなければならない、そういう人がなかなか入っていただけないということも聞いておりますし、拠点化で、この辺はないんですね、消防団の資機材。その辺もやっぱり拠点化としてつくるべきだと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

町うちの消防団員が少ないということにつきましては、消防団の部はそれぞれあるんですけども、なかなか手が足りないところもございます。若い人もいらっしゃるという部分もあるんですけども、消防団員の皆さんが勧誘をしている。また地区の皆さんからもご協力をいただいて、消防団に入っていただくというようなことも行っております。

今後は、今までは、例えば分団単位での定数というんでしょうかね、ここの分団には何人というように枠をつくってはありました。そういうものも撤廃する中で、より多くの方から消防団員になっていただけるというようなことを努めてまいりたいというふうに思っておりますし、いろいろなことでPR、火災予防週間とか、またいろいろなイベントを打った中で団員の確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させてお答えさせていただきますが、やはり消防団の不足というのを最近、非常に大きくあらわれておるわけございまして、その確保をどうやっていくか。そして、今申し上げましたように拠点化も進めております。そういう中で、今、この駅北大火に対応する火災に強いまちづくりに考えておるわけではございますが、その中で、より消防団員は、非常にこの資機材の操作には熟知しておるわけでございますので、例えば消防団員がいないエリアであっても資機材を確保することによって、それを今、勤めはみんないろいろなところで勤めておられるわけございまして、一旦、自分の団へ帰らなくても走って行って、それを使ってやるという点も考えられる、いろんな柔軟な対応できるようなものに持っていく考え方もこれからはあってもいいのではないかなと思っております。今回のこの火災に強いまちづくりという形の中で、また検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ加入促進も含めて、格納庫も含めて、そこに4地区の皆さんのところにもつくっていただきたい。拠点化も含めて、4つを1つにまとめた中でもやっていただきたいなど、こう思っておりますし、団員報酬が、私は新潟県内では何位ぐらいにいつてるかわかりませんが、全国でもわかりません。日本一にしていきたいんですよ。やっぱりそのぐらいにしてもらわないと団員確保かなりできないと思うので、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

日本一ということではありますが、ちょっと全国の情報は持ち合わせておりません。県内の情報でありますと、当市においては、大体、中位ぐらい、真ん中ぐらいという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

県内で中位ぐらいじゃだめなんで、日本一を目指してやっていただきたいと思えますし、これだけやっぱり糸魚川市、地震もあり、焼山、噴火もあり、地すべりあり、雪崩あり、いろいろな災害の宝庫でありますし、津波もわからん。この前、浦本の小学校の文化祭行ったら、1730年代に地震があって、妙高まで津波があったというそういう子供の発表があって、これそんなんがあったんかと。やっぱりわかりませんよ、本当に日本海も含めて。やっぱりその辺も含めて団員も確保していただきたいし、消防職員も増加していただきたい。今の条例だとそこまでいってないんですよ。その辺、市長いかがですか。やっぱりこの辺は駅北もあって、確保並びに職員もふやしていただきたいなと思ってるの、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

消防職員の本年度、28年度4月現在は、90名ということであります。定数では93名ということで、いろんな事情があって、このような状況になっておりますが、本年度につきましては、退職する者が2名、それから、29年度の4月に新たに採用する者が4名の現在予定でございます。そうしますと来年、29年度については、92名体制でということ考えております。現在の93の定数の中で、今後も職員配置を考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

消防団員の報酬のことだというふうに思います。先ほども申し上げたとおり県内では中庸、平均的だというふうに申し上げたところでございます。当市といたしましては、県内全体も見てというところもありますけれども、上越圏域の3市をにらんでというところもあります。その3市との調整等も見ながら消防団員の報酬というのは、報酬審にお願いをしてというようなこともありまして、現在まで推移をしてきているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

いろいろ言われましたけど、かなりプラスすると全部で今度は92人ですか、もうちょいまだ定数に足りませんのでふやしていただきたいのと、こう思っておりますし、消防団員のほうは、この前集まって幹部研修やってアプリの開発、消火栓だとか防火水槽、スマホでわかるようなアプリ開発、その辺も含めていかなんか。

それとできれば城之川から上へ上げられるようなそういうのも研究していただきたいし、笠原議員からありました海からも直接できるような、そういうやっぱり方策も必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

後段のほうの城之川からというようなお話もございました。いろいろなことを検討して、できるもの、できないものはあろうかなというふうに思います。いろいろな具材を出していただくということが、提案をしていただくということが大事なというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

今、議員のほうから海水を使ったというご提案をいただいております。実際に消火活動には、姫川港から海水を持ってきて、消火活動に使ったということでございます。今回の大火によっていろんな水利を使ったわけでございますので、それらを検証の中で含めながら、今後の復興まちづくりの中で検証させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ使えるもんは使って、やっぱり海からも。昔は城之川、川が見えてたんですよ。それを道を壊せっちゃないですけど、やっぱりそのぐらい使える、下へ流れてるのやっぱり使っただけのような工夫も必要だなと、こう思っておりますので、よろしくお願いします。

それと2番目のほうの地域づくり加速化で中間支援施設、これもやっぱり研究すると。研究調査、この29年度でやると言ったんですが、実施計画では30年度に設立するようなことを書いてありますが、駅北大火も含めながらやっぱり中間支援施設、組織、NPO法人だとかいろいろな形で行政と市民を巻き込んだ、その中間のそういうのも必要だと思うんです。今こそやるべきだと思うんですが、この村上市の例を見ますといろいろなことをやってるんですよ。産業から特産品開発だとかいろいろな形でバックアップしながら講師を呼びながらとかいろいろな形でやってる。これをやっぱり糸魚川市、今こそ必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えします。

今回、都岐沙羅パートナーズセンターが全国の表彰を受けたと。県内の仲間として非常にうれし
いなと思っておりますし、先輩というか先達として、その背中を追いかけていきたいなというふう
にも考えております。中間支援組織については、我々も地方創生の話、それから実施計画の中で設
立に向けていかなければならないというふうには痛切に感じております。

ただ、簡単にはできないというのも実感しております、やはりそこを運営する人、リーダーな
り、そこをコーディネートする人なりがやはりいるといったことから、一つはリーダーの要請に力
を注いでいかなければならない。その中から中間支援組織の中核を担う方たちを育てていただいて、
その方たちに中間支援組織を担っていただくということが非常に大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

やっぱり本当に人なんですよね。上越3市で妙高で行われた講演会で、先日もDMO関係で一般
質問をやらせてもらってる。やっぱ外部人材も必要だと思うんです。木村副市長並びにURから来
てる田中参事だとか、いろいろ形でやっぱり糸魚川市に刺激を与えるという外部人材も必要だと思
うんです。それで、村上のもそうですし、前回、第6回の大賞を受けた岡山県のかさおか島づくり
海社、海の社と書いて、海社ですよ。それもやっぱり島の暮らしサポートだとか、島の産業サポ
ート、交わる、交流サポート、空き家とかいろいろ形、学ぶサポート、健康医療福祉、人づくり、
地域づくりの応援隊、きのうもありました金曜日にありました匠の里もございますが、いろいろな
形で地域づくりも今、芽が出てきとるんですよ。それをやっぱり今度は外部人材で、それをどう
するか、特産品開発も含めて、産業振興も含めていろいろな形でやっぱりやるべきところに来とる
と思うんですよ。地元の考えだけじゃだめだと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

土曜日だったでしょうか、糸魚川市は未来づくり交流会がございました。市内全域から150名
の皆様方がお集まりになりまして、いろいろと事例発表が、そしてまたいろいろと自分たちの考え
方や思いをいろいろ出し合っていただきました。そういったことで非常に今、議員ご指摘のように
地域では何かをやろうという、今、非常に機運が高まってきておるところがございます。

また、非常に厳しい人口減少、少子高齢化の中で、今、自分たちの地域はどうあるべきかという
ような、本当にいろんな考え方を持っておりますし、そういう環境の中であるわけでございまして、

やはり今確かに人は大事、人づくりが大事、人をやはりどのように進めていくかは、人と人のどの辺に進めていくかという非常に今大事なときだろうとっております。そういったことの中で非常に私も出席させていただきまして、皆さんと意見交換をする中において非常に気づいたところがいっぱいあったと。そしてまた、市内にはいろんな考え方をやってるところがあるというのをみんなで見え交換をさせてもらったわけでございます。そういったところを常に前向きにみんなで見え、みんなで見えやはり連携をとっていくということの大切さを非常に皆さんが共有したところがございますので、そういった方向で行ける組織であるのか、また人材がおいでいただいて進めていくのか、いろんな考え方があろうかと思うので、我々はもう少し糸魚川市に合った、そういった連携をとって行ける、また一体となって進めていけるような方向にある組織であり、人材を求めながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

私も土曜日、参加したかったんですが、ちょっといろいろあってだめだったんですが、聞くとやっぱり参加して皆さんの意見を聞きながらやるというのはすごい素晴らしいなと、こう思っております。それでやっぱり糸魚川市の身の丈に合った、いろいろな形で人づくり、リーダー育成も含めてやっていただきたいなと、こう思っております。

それで、地域運営組織のほうなんです、これも山形県の川西町で指定管理で社会教育振興会、いわゆる今やとる公民館、自治会連絡協議会、防犯協会、地区社会福祉協議会、衛生組織連合会、これを一体化、フラットにして地域運営組織をつかって、今の糸魚川市で言うと21組織ですか、それをNPOでやってるところもございまして、やっぱり先進地見ているいろいろ形で、今かなりの地域づくり、公民館活動をやとるんですが、やっぱり一体的にやる、青海方式ですかね、いろいろな形を見ればやっぱりそういうのも必要になってくるんでないかと、こう思っております、この辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

実は、山形県の川西町、行って来たわけではないんですけど、以前、東京のシンポジウムで小さな拠点づくりの関係のシンポジウムだったんですが、事例を聞いてきておりますし、横、地区にしたら横、横断的といいますか、横並びのみんな組織で、いろいろ役割分担をしながら地域を元気にしていこうといったイメージで、私ここの発表者の意見を聞いてきたところでありまして。今ほど議員おっしゃったように各地区には、振興会、自治会とかそういったもの、それから何かテーマを持って地域づくりをやっている団体、それと公民館で活躍している公民館の部等の団体、そういったものがいろいろとございます。それぞればらばらではなくて、今後はやはり一緒になって一つの目標といいますか、それぞれに目標を持つんですけど、一つになって地域のことを盛り上げていくという流れが非常に大事じゃないかなと思っております。今回の未来づくり交流会も生涯学習課と私ら手

を取り合って、公民館のほうにもお声がけさせていただいて、そういったところからの役員さんにも来ていただいております。少しずつ種をまいて、芽が出てくればいいかなというふうに考えておりますので、よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

やっぱりいろいろな先進地見るといいところを拾い出して、やっぱり糸魚川市らしさに持っていく必要があると思いますし、先ほど言われた横、横断でなく、それを深くある程度浸透していけるような人づくりも含めて、地域づくりも含めてやっていただきたいと、こう思っておりますし、長野県の飯田市で行われとる30以上の大学の連携して、ネットワーク、学輪IIDAというのがあるんですが、高校が飯田市にはないんですね。それをやっぱり30以上が年何回かに集まって、大学連携、それやっぱり糸魚川市もないんで、大学の層を引っ張って、これに何かいろいろなシンポジウムだとか、いろいろな形で集まって、どう糸魚川をやるかというのも私は必要だと思うんですよ。学輪糸魚川ぐらいの名前にして、そういう今かなり大学も来て、いろいろ地域づくりやりますよね。そうするとばらばらにやるんじゃなく、いつときに集まるのも必要ではないかと、こう思っておりますんで、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えします。

大学連携につきましては、昨年度からというか一昨年度から県の仕組みで事業で糸魚川に大学が来てくれて、研究フィールドとして各地域や集落に入って地域の皆さんに調査したり、それから一緒に集落活動をしたりといったことをやっていただいております。昨年度からは、糸魚川市もそれらが継続できるようにということで、市独自の連携事業も事業化をして取り組んでおります。上南地区での東洋大学とか、あと根知の根小屋における横浜国立大学とか、ことしは小滝においての新潟県立看護大学、そういったところとの連携もとっております。あと早稲田大学との連携協定も結んでおまして、そういったところの大学等ともインターシップを受け入れたり、いろんな形でつながっております。

今のところばらばらの活動という形にはなっておりますが、だんだんこれも進んできますといずれかのうちに何かこうサミットのようなことで、一堂に会してというのもおもしろいかなとも思いますので、また今後、庁内でいろんなこと連携をとりながらそういったことも考えていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

いずれかではなく、ぜひこの機会だとチャンスだと捉えて、やっぱりやっていただきたいなど、こう思っております。

次、3番目に入るんですが、先ほど言わせてもらったUR都市機構に行きましたが、やっぱりいろいろな先進地でやっとなる事例も聞きながら、どう糸魚川市をやるといのは本当に大切だなと。行って見んとわからんところがいっぱいあったんで、その辺で今回、きのう3エリアに分けて、形で会議、並びにきょうからですか、また2回目の意向調査、3月2日には、また有識者で結成されるということで、8月末までに計画を立てるといことなんです、URのやっぱり一緒に行った、その辺も含めて今後、8月末までにどうすればいいかという本当に合意形成も含めて必要だと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

2月1日から国土交通省から木村副市長においでいただき、またUR都市機構からは太田参事においでいただきまして、本当に心強く復興のまちづくりに業務を取り組みさせていただいております。

UR都市機構におきましては、都市の再生、それから賃貸住宅、災害復興、それからニュータウン等いろいろな業務を取り組んでおられます。先ほど議員のほうからも4つのプロジェクトの中の3番目と4番目、これにつきましては、我々糸魚川市においても非常に参考になる事例だろうなというふうに私もお見受けしておるところであります。今、市民の皆様の意向確認をさせていただいております。それがやはりこういう復興まちづくりをしたいという下敷きになるんだろうなと思っております。そういう下敷きをお聞きする中で、URが、また国が取り組んできたいろんな事業を組み合わせながらこれからの復興まちづくりの計画ができ上がっていくというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

やっぱりUR都市機構は、総合的支援、最初は初動期からステップ2で展開期、また活動期に入る。それをやっぱり総合的なところも見ながらやってく、やっぱり事前復興に資するコーディネートをやっているんですね。やっぱりその辺見ればいろいろ形で、これからやるべき姿ちやわかってくるかと思えますし、先ほど中村議員からもありました木密地域不燃化、東京都は10年プロジェクトでやっておりますし、2月1日に品川区議会議員も来て、私らクラブといろいろな形で現地ややらせてもらった中で墨田区の、先ほど中村議員からもありました墨田区の不燃化10年プロジェクトありましたが、そのとおりだと思うんですわ。密集地いっぱいありますんで。そこを今、駅北もやりますが、そのほかにも先ほど斉藤部長も答えていただいた、それと一緒にタイアップして整合性を持ちながらやっていくべきところだと思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

○産業部長（齊藤隆一君）

やはり火災、特に火災ですけれども、防災に強いまちづくりということを前面に出すときにどうしてもソフト、ハード、両面からの取り組みが必ず必要になってくるんだらうというふうにも思っています。そのソフト面の一つが、先ほど中村議員からもご提案・ご意見のありました部分だというふうに思っていますし、我々のほうでもソフト施策のやはり主要な柱として不燃化、10年で終わるのか、20年で終わるのかということもありますけれども、始めなければ終わりが無いと思っていますので、これはできるだけ今回の火災を契機に早期に取り組みをしたいというふうには考えています。

また、ソフトの中でも特に大切なのは、住民の皆さんからも自主防災を初め防災に対する意識啓発というのもとても大切な要素だと。特に初期初動においては、住民の皆さんが何といても主役でありますので、そこをしっかりと、また必要な部分は行政からも当然、働きかけますけれども、そういったところをもって、いわゆるハード、ソフトの総合力をもって火災を初め防災に対応していく必要があるのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ復興まちづくり計画も含めて、今も含めて合わせわざ、先ほど言っていたような形も今こそ必要だと思っておりますし、復興まちづくりの中で私も補正や12月の最終日に言わせてもらった豊後高田の昭和の町、新潟の塩尻宿ですか、江戸時代のモデルにやるということもございまして、できればこの前、南魚沼市に私ら特別委員会でやらせてもらったCCRC関係で、グローバルITパーク、そこらを含めて考えたり、サ付き高齢者住宅、サ高住も含めて福祉の面も考えながら、できれば公共施設をそこへ何かやっていただければいいのと、地元の木材を使用した事業、住宅や商店も含めてやっていただきたい。大手のディベロッパーを使うんでなく、地元からつくっていただけるような体制も必要ではないかと。

それと今、JAもそこにありますんで、JAの直売所もその辺に入れたりとか、いろいろな形でできると思いますし、塩尻のインキュベーション施設、そういうのも入れながら若者カフェだとか、シェアハウス、いろいろ形が出てくると思うんで、描けるものはいっぱいありますけど地元の合意形成が一番必要ですけど、糸魚川市らしさを歴史文化も含めて対応できるのは、やっぱり今だと思うんですが、その辺も含めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

○産業部長（齊藤隆一君）

五十嵐議員から今たくさんのご提案があったと思っています。これらについては、今現在、庁内

のワーキングチームで検討してる中でも幾つか五十嵐議員の今ご提案の案も出ておまして、やはりこの機会に全てが今できるということではありませんけれども、糸魚川市らしさというところで外部からのどういいますか入り込みも想定をしながら、また一方で、これまでの糸魚川市の町並みを生かしたものの、さらにはまた高齢化の問題も今の被災地でもありますけれども、被災地だけではなくて、市内全域の問題でもあるんですけれども高齢化対応の住宅のあり方とか活性化施設のあり方等も含めて、いずれにしてもその地域全体の合意形成を大前提にいろいろ提案を皆さんとまた意見交換をしていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えさせていただきますが、もう全てのことをやれるものは全て俎上に上げて対応していきたいと思っております。

ただ、やはりいろいろご指摘のあるように一番の被災者や被災事業者を中心に置きながらそういう形で進めていきたいと思っております。当然、それには行政も各種団体もそれまでには加わっていききたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に地主の方も含めて合意形成も含めてやっていただきたいなど、こう思っておりますし、日本教育新聞で商店街に学びの秘密基地、秘密基地って本当に子供のころ憧れた、そういうのも載っておりましたし、前にありました保坂議員の中でエヴァンゲリオンでないんですけど、敦賀のシンボルロード、「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」の関係もございましたし、やっぱり漫画家も呼びながらとか、クラフト作家だとかいろいろ形も呼べると思いますし、海を利用できる。やっぱりあそこからただ見るだけでなく、海行って、ヒスイ拾いだとかができるような、今ちょうどいいと思うんで、その中で燃料電池車普及による水素ステーションの設置、これ2020年までに国は100カ所ですか、平成25年度までに100基を目標に上げている。この辺も含めて考えていければいいなと思っておりますし、その辺もちょっと反対勢力もありますが、いろいろ立地適正化も含めてやっていただきたいなど、こう思いますんで、お願いします。

終わります。ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を3時15分といたします。

〈午後3時02分 休憩〉